

3.1 Androidの“ケータイっぽさ”について(2)

既存キー操作モデルの影響(2)

機能が並んだ画面 = メニュー画面

- 初めてオプションメニューを使用するタスクを与えたとき、すぐに[メニュー]キーを押せたモニタは少なかった。しばらく画面の中だけを探索し、諦めて他のアプリケーションやホーム画面に移動してしまうモニタも見られた。タスク後のアスキングでは、[メニュー]キーはアプリケーションが並んだ画面を表示するキーだと思ったり発言したモニタがいたことから、目的の機能(=オプションメニュー)を探す際の対象から外されていたものと思われる。キャリアやメーカーにもよるが、ケータイでは[メニュー]キーを押すことで、いわゆる“メインメニュー”を表示するため、その操作モデルを想起し適用した結果であると考えられる。
- 一方で、[メニュー]キーを押すとオプションメニューが表示されることを理解すると、その後は機能探索時にすぐにオプションメニューを表示できるようになっていた。ケータイでも、詳細機能はサブメニューから実行するという操作モデルが一般的であるため、その操作モデルに変換できたものと思われる。

